

専門委員からの意見（全体的な意見）

- ・第 18 回プリオン専門調査会で議論されたように、書き方を修正すべき。
- ・各項目において、計算していくための仮定をあげる際には、そのつど根拠となる文献なり事実を記していく、科学論文の手法を用いるべき。
- ・異常プリオンたん白質蓄積価で算出するのが容易と考えるが感染価で算出しなければならないのであれば、まだ科学的知識が十分でない状態での算定をしなければならない。
- ・算出された数値が一人歩きしないようにするためにも、推定根拠を明示する必要がある。
- ・委員が集まって一つ一つ議論を進めていくべき。
- ・委員会からの依頼・論議もないまま作製されたものであり、また、内容には独断と誤りも見られたので指摘したが、中立ではなく何か“ある種の意図”のようなものを感じる。白紙から作り直した方がよいのでは？
- ・非専門家にも理解できる平易な表現を心がける。
- ・なるべく箇条書きにして、論点をはっきりさせる。
- ・一般向けに短い文章で区切るようにする。
- ・学術用語はなるべく避け、必要な場合には注釈をつける。
- ・試算における前提、問題点、限界を明記して、安易な結論に結びつけない。また、数字の一人歩きを防ぐように配慮する。
- ・リスクコミュニケーションとリスク評価の相互関係を検討、科学者集団での議論と消費者の意見ないし疑問への対応を考慮する。これまでの審議会での諮問への回答とは異なり、科学者集団と消費者集団の間でのトランス・サイエンス的側面への対処を念頭におく。